

はじめに

ナーシング・グラフィカ母性看護学①『概論・リプロダクティブヘルスと看護』, ②『母性看護の実践』, ③『母性看護技術』の3冊は, 「いのちの創造」「性のウェルビーイング」そして「親になることを支える」看護を学ぶテキストです。

この3冊として大幅に改訂した2019年の冬, COVID-19が世界各地を襲い, この禍中においてジェンダーに関する社会的, 経済的, 政治的な影響や意味が問われました。まずエッセンシャルワーカーである医療・介護従事者の多くは女性であることです。また, 外出自粛要請やステイホーム政策下で家庭内暴力が増加し, その被害者は女性や子どもでした。女性が性風俗関係の職業に就く事情, 非正規労働者やシングルペアレントへの保障が脆弱であることも明みに出ました。政策決定過程に女性を加えなくてはならないこと, ジェンダー役割を撤廃し, 男女平等なケア負担をサポートする政策の重要性が明らかになりました。

第3版では, セクシュアル・リプロダクティブヘルス/ライツ (sexual reproductive health and right : SRHR) の内容を拡大して, SRHRの課題の最前線で活躍されている方々に執筆していただき, SRHRの歴史と新定義, 母子や女性のために策定された新しい法律や施策, ガイドラインを追加しています。性的指向や性同一性を理由とするハラメント防止対策, 里親・特別養子縁組を含む多様な家族の形, ジェンダー格差の問題なども取り上げています。さらに, 包括的セクシュアリティ教育やプレコンセプションケアを加えました。これは, 生殖に関する自律性 (reproductive autonomy) に基づく幸福/ウェルビーイングについて考えていただきたいからです。

看護師の責務は, その人の人生の体験としての健康課題に関心をもって関わることです。母性看護では, 妊娠・分娩・出産を通して「その人らしさ」, その人が経験する「新しい役割」「他者への愛着」「親と子の相互作用」に関心を寄せます。さらに人格形成に深く関わる「セクシュアリティ」「ジェンダー」の理解を通して, 人の本質や奥底にあるものを洞察する力が育つことを願っています。

また, リプロダクティブヘルスの中心概念を理解するには, 心身の成長発達, 生殖過程, 特有の病を理解する必要があります。本書は, 性・生殖に関する生理や健康課題, 不妊症, 加齢による女性特有の健康上の危機について丁寧に解説しています。学生の皆さんには, リプロダクティブヘルスに影響する疾患を理解すると同時に, 予防法, 早期診断, 治療の選択肢と意思決定支援について学習することを期待しています。

最後に, 本書が, 学生の皆さんがSRHRをめぐる深刻な問題に気付き, 自分にできることは何かを考え続ける看護師へと成長する一助となれば幸いです。